

松山町埋蔵文化財発掘調査報告書（14）

県営中山間地域総合整備事業やちく松山地区に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

ほり の うち い せき
堀 之 内 遺 跡

2000年3月

鹿児島県曾於郡松山町教育委員会

序 文

秦野の町道老人ホーム市ノ原線を中山間事業で整備するにあたり、平成7年度に行った分布調査の結果、この地域は埋蔵文化財の包蔵地にあたるとうかったので、堀之内遺跡を平成12年2月9日から平成12年3月1日までの間発掘調査をしました。調査面積は62㎡になりました。

秦野の堀之内遺跡は京ノ峯遺跡や前谷遺跡から約200m～300mくらいしか離れていないため、貴重な資料が発見されるかと期待していましたが、遺物が出土し遺跡の範囲も把握されましたが、住居跡などの遺構は見られませんでした。調査した面積も狭い範囲だったためでしょうか。住居跡などの重要な遺構はそう簡単には見つからないものだ実感しました。

最後になりましたが、積極的に発掘調査に従事していただいた方々、また精力的に御指導いただいた県教育庁文化財課、埋蔵文化財センターの先生方に厚く御礼申し上げます。

平成12年3月

松山町教育委員会

教育長 川 畑 禮 二

例 言

1. 本報告書は、平成11年度に実施した県営中山間地域総合整備事業やっちく松山地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は県の受託事業として松山町教育委員会が実施した。
3. 発掘調査の実施及び実測は上田義明が行った。
4. 発掘調査の現場写真・遺物写真は上田義明が撮影した。
5. 本書に用いたレベル数値はすべて海拔絶対高である。
6. 本報告書の執筆・編集は上田義明が行った。
7. 発掘調査後の整理作業は松山町歴史民俗資料館で行った。
8. 出土遺物は、報告書作成終了後、松山町歴史民俗資料館で保管し、展示・活用する計画である。

報 告 書 抄 録

| | | | | | |
|----------|--|------|---------|-------------|------|
| ふりがな | ほりのうちいせき | | | | |
| 書名 | 堀之内遺跡 | | | | |
| 副書名 | 県営中山間地域総合整備事業やっちく松山地区に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書 | | | | |
| 巻次 | | | | | |
| シリーズ名 | 松山町埋蔵文化財発掘調査報告書 (14) | | | | |
| シリーズ番 | | | | | |
| 編著者名 | 上田 義明 | | | | |
| 編集機関 | 松山町教育委員会 | | | | |
| 所在地 | 〒899-7602 鹿児島県曾於郡松山町泰野3410番地 | | | | |
| 発行年月日 | 2000年3月31日 | | | | |
| | | | | | |
| ふりがな | ほりのうちいせき | | | | |
| 所収遺跡名 | 堀之内遺跡 | | | | |
| 所在地 | 鹿児島県曾於郡松山町泰野堀之内 | | | | |
| 調査期間 | 2000. 2. 9~3. 1 | | | | |
| 調査面積 | 70㎡ | | | | |
| 調査原因 | 県営中山間地域総合整備事業やっちく松山地区 | | | | |
| | | | | | |
| 出土遺物・遺構等 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 出土量 | 特記事項 |
| | 縄文時代 | | 縄文時代 晩期 | パンケース 3箱 | |

本文目次

序文

例言

報告書抄録

| | | |
|-----|------------|----|
| 第1章 | 調査の経過 | 1 |
| 第1節 | 調査に至るまでの経過 | 1 |
| 第2節 | 調査の組織 | 1 |
| 第3節 | 調査の経過 | 2 |
| 第2章 | 遺跡の位置及び環境 | 3 |
| 第3章 | 層位 | 9 |
| 第4章 | 調査の概要 | 9 |
| 第5章 | 出土遺物 | 14 |

挿図目次

| | | |
|-----|----------------|----|
| 第1図 | 堀之内遺跡表面採集遺物実測図 | 3 |
| 第2図 | 松山町遺跡分布図 | 7 |
| 第3図 | 堀之内遺跡位置図 | 8 |
| 第4図 | 土層模式柱状図 | 9 |
| 第5図 | 遺物出土状況及び層位断面図① | 10 |
| 第6図 | 遺物出土状況及び層位断面図② | 11 |
| 第7図 | 遺物出土状況及び層位断面図③ | 12 |
| 第8図 | 遺物出土状況及び層位断面図④ | 13 |
| 第9図 | 堀之内遺跡出土遺物実測図 | 15 |

表目次

| | | |
|-----|----------|----|
| 第1表 | 松山町遺跡一覧表 | 4 |
| 第2表 | 出土土器観察表 | 14 |

図版目次

| | | |
|-----|-----------|----|
| 図版1 | 堀之内遺跡遠景 | 16 |
| 図版2 | 遺物出土状況(1) | 16 |
| 図版3 | 遺物出土状況(2) | 17 |
| 図版4 | 層位断面 | 17 |

第1章 調査の経過

1) 調査に至るまでの経過

鹿児島県農政部（大隅耕地事務所）は、曾於郡松山町秦野市ノ原工区において中山間事業を計画し、実施計画地区内における埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会文化財課に照会した。

これをうけて、平成7年4月、県文化財課で当該地区の分布調査を実施したところ、工事実施予定区域内に堀之内遺跡の存在していることが確認された。この結果に基づき、松山町教育委員会が調査主体となって、遺跡の範囲・性格等を把握するための発掘確認調査を平成実施することとなった。発掘調査は、鹿児島県農政部（大隅耕地事務所）からの受託事業として、松山町教育委員会が調査主体となり、県文化財課の協力を得て、平成8年2月8日から平成8年3月4日まで実施した。調査面積は計48㎡である。

その結果、調査区域の東側より遺物が出土したため、松山町教育委員会と大隅耕地事務所との協議の結果、工事予定区内で遺跡の範囲と思われるところを全面調査することになった。発掘調査は平成12年2月9日から平成12年3月1日まで実施した。調査面積は70㎡である。

2) 調査の組織

| | | | | | |
|---------|----------|----------|---------|--|--|
| 調査主体者 | 松山町教育委員会 | | | | |
| 調査責任者 | 松山町教育委員会 | 教 育 長 | 川 畑 禮 二 | | |
| 調査事務担当者 | 〃 | 教 育 課 長 | 迫 田 正 弘 | | |
| | 〃 | 課 長 補 佐 | 福 留 栄 行 | | |
| | 〃 | 参事兼指導主事 | 東 口 信 | | |
| | 〃 | 主 査 | 福 岡 百 子 | | |
| | 〃 | 派遣社会教育主事 | 河原橋 憲 章 | | |
| | 〃 | 主 事 | 吉 元 裕 二 | | |
| | 〃 | 主 事 | 上 田 義 明 | | |
| | 〃 | 主 事 | 佐々木 剛 | | |
| | 〃 | 社会教育指導員 | 本 村 典 生 | | |
| | 〃 | 庶 務 係 | 早 崎 ゆう子 | | |
| 調査担当者 | 松山町教育委員会 | 主 事 | 上 田 義 明 | | |

なお、調査の企画等において県教育庁文化財課長山本文雄氏、同参事熊迫紀生、同課長補佐庭月野愼一氏、同主任文化財研究員兼埋蔵文化財係長戸崎勝洋氏の各氏のほか同企画助成係の指導助言を得た。

3) 調査の経過

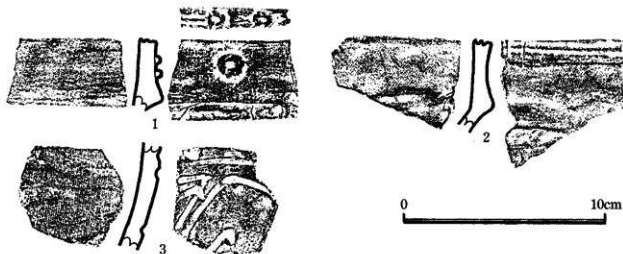
- 2月9日(水) 調査開始。調査器具の搬入。発掘調査についての説明。重機を使ってアスファルトをはがし、アスファルトは2トントラックにて近くの町有地に仮に保管、発掘調査後の工事受注業者によって廃棄処理を行う予定。表土を掘削。第2層を検出するが、調査区内の北端においては第3・第4層が欠落しており第5層面が検出された。工事区内に畑灌漑用水用の管が既に配管されているため、その部分をさけて掘り下げる。出土遺物なし。
- 2月10日(木) 引き続き重機を使って表土を掘削、第2層検出作業。
- 2月14日(月) 発掘調査幅は約2m×35mで、その部分を手掘りにより第2層を掘り下げる。調査区内の北端の第5層面も掘り下げ、その第5層面より土器片多数出土。
- 2月15日(火) 引き続き第2層を掘り下げる。
- 2月16日(水) 前日に引き続き2層を掘り下げるが一部第3層面に入る。第3層からも土器片が出土。
- 2月17日(木) ほぼ第3層面を検出。さらに掘り下げ一部第4層を検出、さらに掘り下げる。第4層からも土器片少数出土。
- 2月18日(金) 第4層掘り下げ。第4層、第5層(調査区内北端) 遺物出土状況写真撮影。実測。遺物取り上げを行う。
- 2月21日(月) 第5層検出。第5層掘り下げ。調査区内中央部から北端にかけて土器片、石器多数出土。
- 2月22日(火) 引き続き第5層掘り下げ。一部第6層面検出。土器片出土。
- 2月23日(水) 第5層掘り下げ、第6層検出。第6層掘り下げ。土器片少数出土。
- 2月24日(木) 第6層掘り下げ、一部第7層検出。第5層、第6層遺物出土状況写真撮影。実測。遺物取り上げ。
- 2月28日(月) 第7層掘り下げ。一部第8層検出。出土遺物なし。全調査掘り下げ終了。
- 2月29日(火) 北西壁層位断面図実測。北西壁層位断面図実測終了後、埋め戻し開始。埋め戻しは廃土置き場より、ベルトコンベアーを使用し、調査区内全域に約30cmの厚さで土を埋め、その後振動ローラーで転圧する。以後その作業を繰り返す。堀之内遺跡グリッド位置図実測。
- 3月1日(水) 午前中で埋め戻し作業終了。午後より調査機材搬出。全作業終了。

第2章 遺跡の位置及び環境

堀之内遺跡のある松山町は、大隈半島曾於郡のほぼ中央部に位置し、東西に細長く東西12km、南北4kmである。東は志布志町、西は末吉町、南は有明町・志布志町、北は末吉町に境している。

経緯度は東経13度から13度7分、北緯31度37分で、町総面積は49.69km²であり、山岳は末吉町に境する宮田山520m、有明町に境する霧岳408mが主な丘陵で、河川は大隈町岩川から新橋河床を経て、町の西端を流れる菱田川上流と、尾野見排水東端と大統東端を流れる安楽川の支流が主な河川である。気温は年間平均16.5度で西部台地と東部台地とでは年間平均気温が1度から2度の差があり、西部台地は一般的に霜が早く10月中旬には、初霜を見ることもある。晩霜は4月下旬で終わる。夏期における気温の変化は大差なく、最高36度くらいである。降雨量は平均2,190mmで中でも5月、6月の梅雨期と、8月9月の台風襲来時に集中するためシラス台地にある耕地等においては土の流失、埋没浸食の被害もある。風は12月から翌年3月にかけて北西の季節風が強く高台では冬作物の被害もある。4月から7月にかけては南東の風があり、6月下旬から10月にかけての台風襲来時における災害は耕地作物に与える影響が極めて大である。

今回の調査を行った堀之内遺跡は松山町の地理的中心に位置する泰野地区にあり、平成3年に調査を行った京ノ峯遺跡、昭和63年に調査を行った前谷遺跡の東側に位置する。今回の調査区域のから西側の京ノ峯遺跡に隣接する畑地において土器3点が採集された(図1参照)。1と2は縄文時代後期土器片口縁部で、特に1は口縁部外面及び口唇部に円形の突帯を有する。1と2は同一固体と思われる。3は外面に幾何学紋的凹線を有する土器で同様の時期の土器と思われる。この周辺の遺跡は縄文時代早期から弥生時代あるいは古墳時代までに及ぶ複合遺跡が多く存在し、遺跡の残りもよく資料的に貴重なものが多く発見されている。近くに勇水池があるなど地理的環境にめぐまれ古来より安住の地であったと思われる。



第1図 堀之内遺跡表面採集遺物実測図

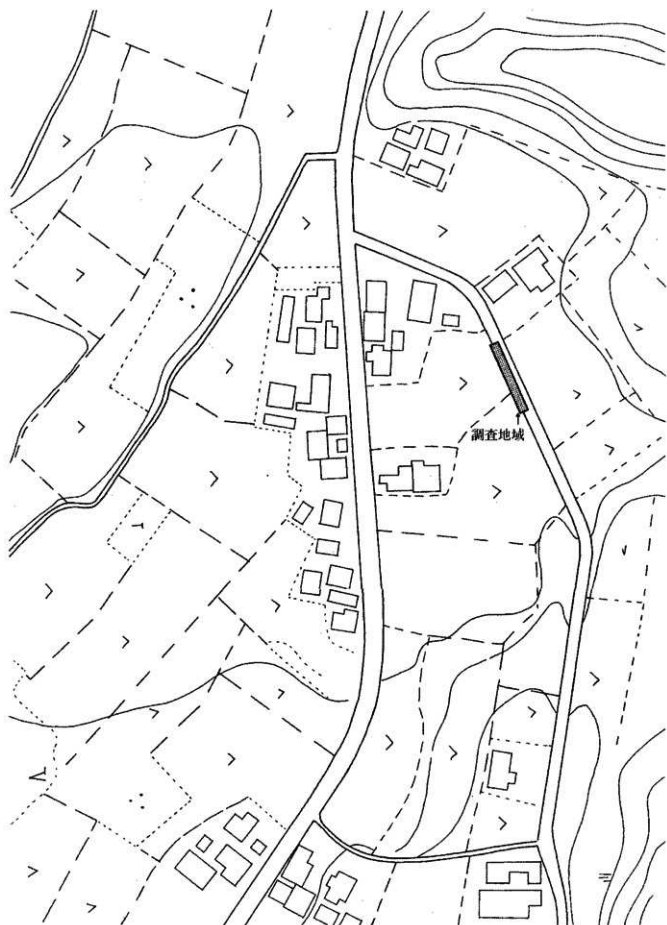
松山町遺跡一覽表

第1表

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 時代 | 遺物等 | 備考 |
|----|-------|----------|---------------|---------------|----|
| 1 | 宇都谷 | 新橋字宇都谷 | 縄(早) | 前平式 | |
| 2 | 宇都D | 新橋字宇都 | 縄(早・後), 歴 | 吉田式, 土師器, 須惠器 | |
| 3 | 砂田A | 新橋字砂田 | 縄(早) | 石坂式, 押型文 | |
| 4 | 中村 | 尾野見字中村 | 縄(早) | 前平式 | |
| 5 | 下迫C | 新橋字下迫 | 縄(早) | 塞ノ神式 | |
| 6 | 榎之俣 | 新橋字榎之俣 | 縄(早) | 塞ノ神式 | |
| 7 | 砂田D | 新橋字砂田 | 縄(前), 弥(中) | 溝式 | |
| 8 | 稗ヶ迫C | 新橋字稗ヶ迫 | 縄(前), 弥(中), 歴 | 溝式, 土師器 | |
| 9 | 内ノ野C | 泰野字内ノ野 | 縄(前) | 塞ノ神式 | |
| 10 | 前ノ谷 | 泰野字堀之内 | 縄(前) | 阿高式, 御領式 | |
| 11 | 公会堂上 | 新橋字公会堂上 | 縄(前) | 塞ノ神式 | |
| 12 | 狩川B | 新橋字狩川 | 縄(中) | 阿高式 | |
| 13 | 松山 | 新橋字松山 | 縄(中・後) | 阿高式, 御領式 | |
| 14 | 入道久保A | 新橋字入道久保 | 縄(中) | 阿高式 | |
| 15 | 内ノ野B | 泰野字内ノ野 | 縄(中) | 阿高式 | |
| 16 | 郷田 | 泰野字郷田 | 縄(中) | 阿高式 | |
| 17 | 蛇山ノ谷 | 尾野見字蛇山ノ谷 | 縄(中), 弥(中) | | |
| 18 | 垂門A | 新橋字垂門 | 縄(後) | 市来式 | |
| 19 | 下迫A | 新橋字下迫 | 縄(後), 弥(中), 歴 | 御領式 | |
| 20 | 堀口 | 新橋字堀口 | 縄(後), 歴 | 御領式, 青磁 | |
| 21 | 河床 | 新橋字河床 | 縄(後) | | |
| 22 | 宇都A | 新橋字宇都 | 縄(後) | 松山式 | |
| 23 | 宇都B | 新橋字宇都 | 縄(後), 歴 | 須惠器 | |
| 24 | 宇都C | 新橋字宇都 | 縄(後) | 岩崎上層式 | |
| 25 | 中村迫 | 新橋字中村迫 | 縄(後), 歴 | 土師器, 須惠器 | |
| 26 | 山ノ田 | 新橋字山ノ田 | 縄(後), 歴 | 松山式, 土師器 | |
| 27 | 後谷A | 新橋字後谷 | 縄(後) | 指宿式 | |
| 28 | 上ノ原 | 新橋字上ノ原 | 縄(後) | 綾式, 岩崎上層式 | |
| 29 | 入道久保C | 新橋字入道久保 | 弥(後) | | |
| 30 | 假屋 | 新橋字假屋 | 縄(後・晩), 歴 | 土師器 | |
| 31 | 稗ヶ迫A | 新橋字稗ヶ迫 | 縄(後), 歴 | 御領式, 土師器 | |

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 時代 | 遺物等 | 備考 |
|----|--------|-----------|---------------|----------|----|
| 32 | 中山 A | 新橋字中山 | 縄(後) | | |
| 33 | 堀之内 | 秦野字堀之内 | 縄(後・晩), 歴 | 市来式, 土師器 | |
| 34 | 黒石崎 | 尾野見字黒石崎 | 縄(後) | 出水式 | |
| 35 | 井手段Ⅲ | 尾野見字中村井手段 | 縄(後) | 岩崎上層式 | |
| 36 | 百田 | 新橋字百田 | 縄(晩) | 上加世田式 | |
| 37 | 溝溝 | 新橋字垂門溝溝 | 縄(晩), 歴 | 土師器 | |
| 38 | 牧ノ原 B | 新橋字牧ノ原 | 縄(晩), 弥(中) | | |
| 39 | 大原 | 新橋字大原 | 縄(晩), 弥(中), 歴 | 入来式, 土師器 | |
| 40 | 後ノ谷 | 新橋字後谷 | 縄(晩), 歴 | 土師器 | |
| 41 | 水流知 | 新橋字水流知 | 縄(晩), 歴 | 土師器 | |
| 42 | 蔵野 | 新橋字蔵野 | 縄(晩), 歴 | 土師器 | |
| 43 | 入道久保 B | 新橋字仮屋 | 縄(晩), 歴 | 土師器, 須恵器 | |
| 44 | 稗ヶ迫 B | 新橋字稗ヶ迫 | 縄(晩) | | |
| 45 | 中山 B | 新橋字中山 | 縄(晩), 弥(中) | 入来式 | |
| 46 | 黒石Ⅱ | 尾野見字黒石 | 縄(晩) | | |
| 47 | 牧ノ段 | 新橋字牧ノ段 | 縄(早・晩) | | |
| 48 | 井手間 | 新橋字井手間 | 縄(晩) | | |
| 49 | 梨木 | 新橋字梨木 | 縄, 歴 | 土師器, 青磁 | |
| 50 | 大窪 B | 新橋字大窪垂門 | 縄, 歴 | 土師器 | |
| 51 | 後谷 B | 新橋字後谷 | 縄 | | |
| 52 | 前ノ谷 | 新橋字後谷 | 縄 | | |
| 53 | 前谷 | 秦野字前谷 | 縄(中), 弥(中), 歴 | 春日式 | |
| 54 | 砂田 C | 新橋字砂田 | 縄, 歴 | 土師器 | |
| 55 | 黒石Ⅰ | 尾野見字黒石 | 縄 | | |
| 56 | 豊留 | 新橋字豊留 | 弥(中) | | |
| 57 | 大窪 A | 新橋字大窪 | 弥(中) | | |
| 58 | 狩川 A | 新橋字狩川 | 弥(中・後) | | |
| 59 | 内ノ野 A | 秦野字内ノ野 | 弥(中) | | |
| 60 | 柿木瀬戸 | 秦野字柿木瀬戸 | 弥(中) | | |
| 61 | 六日畑 | 尾野見字六日畑 | 弥(中) | 山之口式 | |
| 62 | 中村手岡 | 尾野見字中村手岡 | 弥(中) | | |

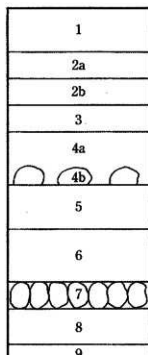
| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 時代 | 遺物等 | 備考 |
|----|----------|-----------|-------------|--------------|----------|
| 63 | 鳩 窪 | 尾野見字鳩窪 | 弥(中) | 山之口式 | |
| 64 | 井手段 I | 尾野見字中村井手段 | 弥(後) | | |
| 65 | 砂田 B | 新橋字砂田 | 弥 | | |
| 66 | 川 路 | 新橋字川路 | 弥 | | |
| 67 | 栗須田 | 新橋字栗須田 | 弥 | | |
| 68 | 尾野見 | 尾野見 | 弥 | | |
| 69 | 桐ノ木 | 尾野見字桐ノ木 | 弥 | | |
| 70 | 瀬戸地下式横穴 | 泰野字柿木瀬戸 | 古 | 地下式横穴 | |
| 71 | 竹 下 | 新橋字竹下 | 歴 | 土師器, 須恵器, 青磁 | |
| 72 | 四ツ枝 | 新橋字四ツ枝 | 歴 | 土師器, 須恵器, 青磁 | |
| 73 | 垂門 C | 新橋字垂門 | 歴 | 土師器 | |
| 74 | 下迫 B | 新橋字下迫 | 歴 | 土師器 | |
| 75 | 牧ノ原 A | 新橋字牧ノ原 | | | |
| 76 | 後谷 C | 新橋字後谷 | | | |
| 77 | 狩川 C | 新橋字狩川 | 歴 | 須恵器 | |
| 78 | 清水迫 | 新橋字清水迫 | 歴 | 土師器 | |
| 79 | 川 東 | 泰野字川東 | 歴 | 土師器, 須恵器 | |
| 80 | 垂門 B | 新橋字垂門 | 弥, 歴 | 土師器 | |
| 81 | 前之窪 | 新橋字前之窪 | 弥(中), 歴 | 土師器 | |
| 82 | 京ノ峯 | 泰野字京ノ峯 | 縄(中・後・晩), 弥 | 春日式, 山之口式 | H5.32河指定 |
| 83 | 松山城 | 新橋字松尾 | 歴 | 土師器 | S49.3河指定 |
| 84 | 銭ヶ迫一里塚 | 尾野見字桃木銭ヶ迫 | | | 〃 |
| 85 | 柏木門前四郎の墓 | | | 尾野見字柏木 | 〃 |
| 86 | 中原一里塚跡 | 尾野見字中原 | | | 〃 |
| 87 | 泰野の石敢当 | 泰野字京ノ峯 | | | 〃 |
| 88 | 馬場の庚申塔 | 新橋字馬場 | | | 〃 |
| 89 | 豊留の田之神 | 新橋字豊留 | | | 〃 |
| 90 | 豊留の板碑 | 新橋字豊留 | | | 〃 |
| 91 | 長田越中夫妻の墓 | 新橋字東野久尾 | | | 〃 |
| 92 | 前谷 B | 泰野字前谷 | 縄, 弥, 古 | 弥生住居 | |
| 93 | 水ノ谷 | 新橋字水ノ谷 | 縄 | | |



第3図 堀之内遺跡位置図

第3章 層位

- 1層 表土・耕作土。黒色の火山灰土で、大隅半島に普遍的に見られる「クロボク」とよばれるものである。色調により2層に分類できる。
- 2 a層 黒色土層。かなり硬くしまっている。戦前の旧道路面と思われる。調査区北側のみに確認できる。
- 2 b層 暗褐色土層。1層と同じ層で旧道路を作る時の表土部分が残った層と思われる。



第4図 土層模式柱状図

- 3層 明黄褐色軽石質火山灰土層。縄文時代の該当層である。きわめて淘汰のよい直径5mm前後の黄褐色軽石を含み、サラサラしている。霧島火山御池軽石層に対比できるものと思われる。
- 4 a層 褐色腐食火山灰土層。直径1mm前後の黄褐色軽石を多く含む。4 b (鬼界カルデラ起源のアカホヤ) 層の二次堆積層とおもわれる。
- 4 b層 明褐色火山灰土層。上位のフカフカした新鮮な火山灰と下位の砂粒、火山豆石を含む薄層理層とに区分できる。安定した層をなさず5層下部にブロック状に点在している場所も見られる。鬼界カルデラ起源のアカホヤ層に対比できる。
- 5層 灰褐色火山灰土層。直径1cm前後の黄褐色軽石および直径5mm前後の青灰色安山岩小礫を多く含む。縄文時代早期の遺物包含層である。
- 6層 黒褐色腐食土層。直径5mm前後の黄褐色軽石および直径5mm前後の青灰色安山岩小礫を多く含む、割合に硬くしま

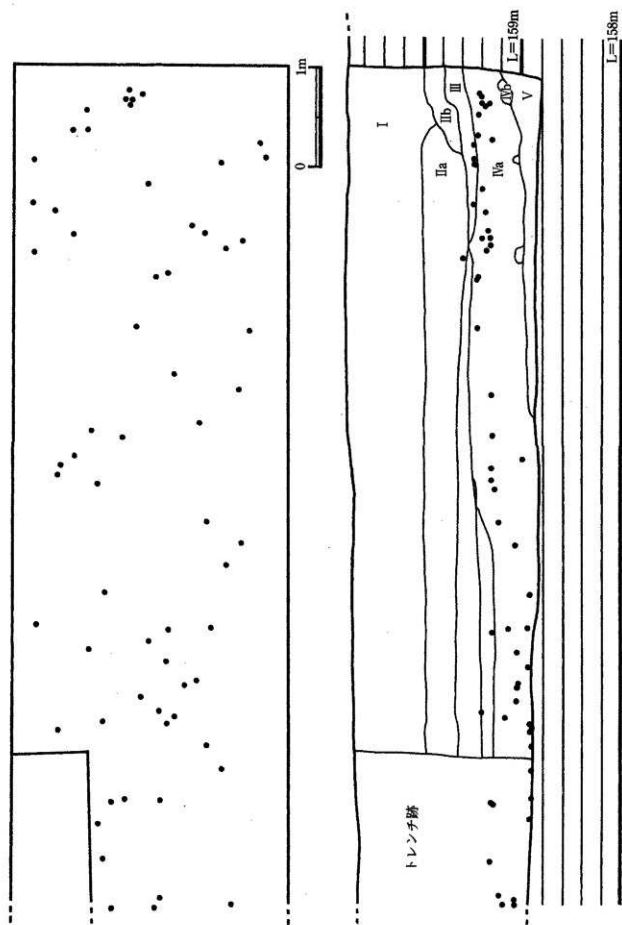
っている。5層との境は不明瞭で漸移している。

7層 茶褐色土層。やや粘質を帯びる。ほぼ10cmの厚さで堆積している。

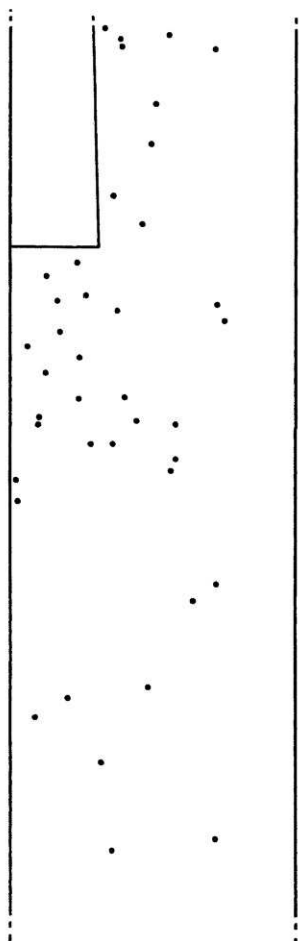
8層 黄褐色火山灰土層。割合に硬くしまった粘土化した火山灰土で、6層下部にブロック状にはいる。桜島起源の「薩摩層」に対比できる。

第4章 調査の概要

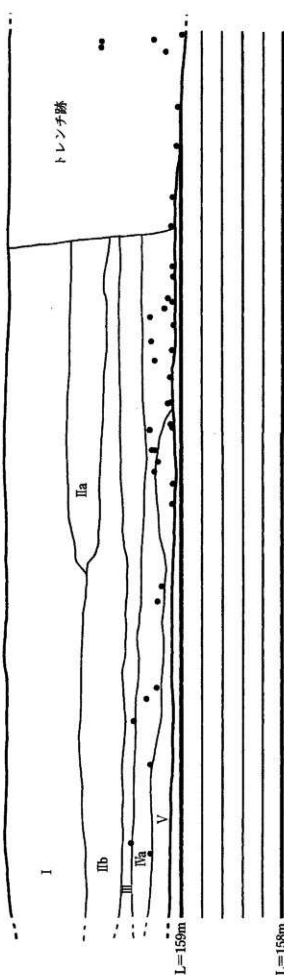
調査区域は、松山町奈野堀之内集落にあり、標高約161mで京ノ峯遺跡の東に位置する町道老人ホーム市ノ原線と県道塗木大隅線から約50m南に入った地点である。町道老人ホーム市ノ原線は既に畑灌漑用水用の配水管が埋設されており、幅約3m分は避けて調査した結果、約2m×長さ約35mの範囲約70㎡のグリッドを設定して調査を行った。また、平成8年の確認調査の結果、第3層から第5層にかけて遺物包含層が確認されているため、重機を使い、表土を掘削し、第3層の直上第2層面を検出し、それ以降の層を手堀りによる調査を行ったが、調査区内の北端は戦前の旧道工事のために3層から4層は欠損しており、5層面まで重機で掘削し5層より手堀りによる調査を行った。



第5図 遺物出土状況及び層位断面図①



0 1m

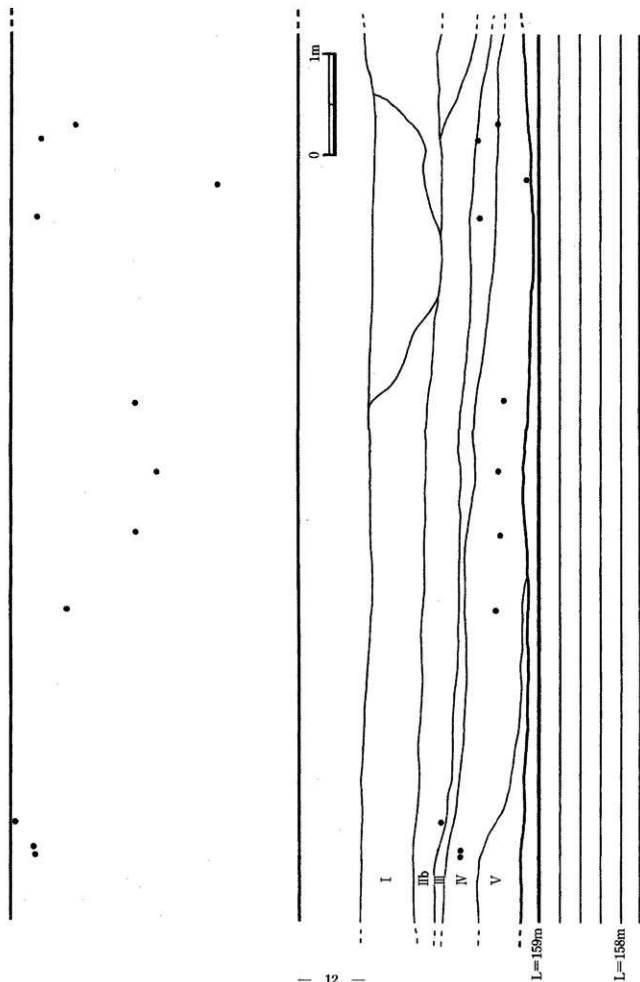


トレンチ跡

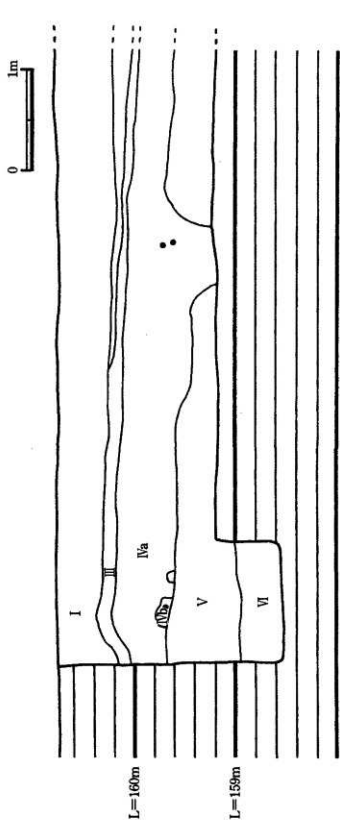
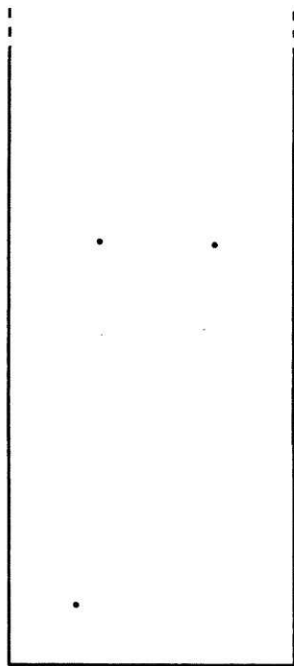
L=158m

L=158m

第6図 遺物出土状況及び層位断面図②



第7図 遺物出土状況及び層位断面図③



第8図 遺物出土状況及び層位断面図④

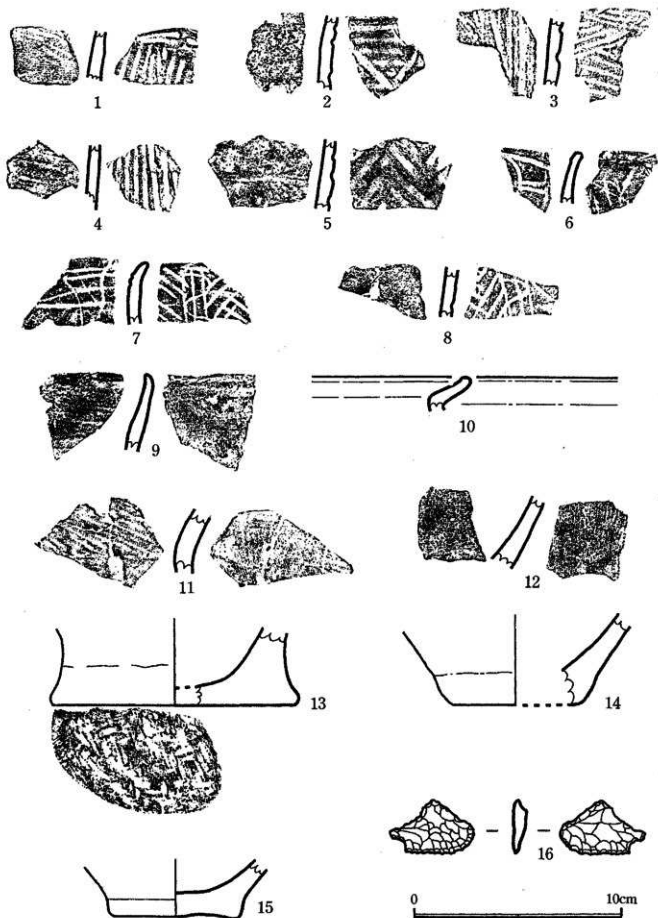
幅 その結果、第2層、第3層より縄文晩期の土器が出土し、第4層、第5層からは縄文後期の土器、第6層からは縄文早期の土器が出土した。遺構等は確認できなかった。出土した土器はほとんどが小片で特に縄文時代早期のものは数点であった。また、石器も数点出土している。

第5章 出土遺物

出土遺物は土器片がほとんどで石器は数点であった。1は頸部片で外面に縦の沈線を連続して施し、上部には横位に沈線を施している。2も頸部片で外面に横位の沈線を施した後、斜位にV字状に凹線を施す。3は胴部片で外面に斜位に連続して沈線を施している。4は胴部片で外面に縦位の沈線を連続して施す。1から4とも同一型式の土器であるが、2だけ胎土に石英が多量に混入しており、他の土器と若干の違いが見られる。5は胴部片で外面に斜めの凹線を連続して施す。またススも付着している。6は口縁部片で、若干口縁部先端が外反する器形で外面、内面とも沈線を施す。7は口縁部片で、若干口縁部先端が外反する器形である。外面は斜位に沈線を連続して施し、その上から波上に沈線を施す。内面にも横位に沈線を数条施した上から、更に波状に沈線を施す。8は胴部片で6、7と同様の文様を施すが内面には文様は認められない。6、7、8とも同型式の土器と思われる。9は口縁部片で口縁部先端が若干内湾する器形である。外面にススが付着している。10は浅鉢の口縁部で内外面ともヘラケズリ後ナデ調整を施す。11は頸部片で無紋である。12は胴部片で内外面ともヘラケズリ後ナデ調整を施す。9から12は縄文時代晩期の土器と思われる。13は底部で先端が外に張り出した器形である。14は底部片で低部径が小さい。15は安定した器形の底部である。16は石器で石匙である。

第2表 土器観察表

| 遺物 番号 | 胎 土 | 焼成 | 色 調 | | 文 様 そ の 他 |
|----------|-----------|----|-------|-------|-----------------|
| | | | 外 面 | 内 面 | |
| 1 | 石英・長石・砂粒 | 良好 | 暗 褐 色 | 灰 褐 色 | 外面に沈線を施す。 |
| 2 | 石英・長石・砂粒 | 良好 | 暗 褐 色 | 茶 褐 色 | 外面に沈線を施す。 |
| 3 | 石英・砂粒 | 良好 | 暗茶褐色 | 茶 褐 色 | 外面に沈線を施す。 |
| 4 | 石英・長石・微砂粒 | 良好 | 暗 褐 色 | 暗 褐 色 | 外面に沈線を施す。 |
| 5 | 石英・長石・微砂粒 | 良好 | 暗茶褐色 | 茶 褐 色 | 外面に凹線を施す。 |
| 6 | 石英・砂粒 | 良好 | 明 褐 色 | 明 褐 色 | 外面に沈線を施す。 |
| 7 | 石英・砂粒 | 良好 | 明 褐 色 | 明 褐 色 | 外面に沈線を施す。 |
| 8 | 石英・砂粒 | 良好 | 明 褐 色 | 明 褐 色 | 外面に沈線を施す。 |
| 9 | 石英・長石・砂粒 | 良好 | 暗 褐 色 | 暗茶褐色 | 外面にスス付着。 |
| 10 | 石英・砂粒 | 良好 | 明 褐 色 | 明 褐 色 | 内外面ともヘラケズリ後ナデ調整 |
| 11 | 石英・砂粒 | 良好 | 暗 褐 色 | 明 褐 色 | |
| 12 | 石英・砂粒 | 良好 | 明茶褐色 | 黒 褐 色 | 内外面ともヘラケズリ後ナデ調整 |
| 13 | 石英・長石・砂粒 | 良好 | 暗 褐 色 | 茶 褐 色 | |
| 14 | 石英・長石・砂粒 | 良好 | 暗 褐 色 | 暗茶褐色 | |
| 15 | 石英・長石・砂粒 | 良好 | 暗 褐 色 | 灰 褐 色 | |



第9图 堀之内遺跡出土遺物実測図



図版1 堀之内遺跡遠景



図版2 遺物出土状況(1)



図版3 遺物出土状況(2)



図版4 層位断面

松山町埋蔵文化財発掘調査報告書 (14)
県営中山間地域総合整備事業やっちく松山
地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

堀之内遺跡

発行 松山町教育委員会
〒899-7692

鹿児島県曾於郡松山町新橋268番地
TEL(0994)87-2111 FAX(0994)87-2593

印刷 志布志新生社印刷